

審議会等議事概要

令和5年度 第1回滝川市いじめ防止専門委員会 議事概要

日 時	令和5年9月21日（木）15：30～17：58
開催場所	滝川市役所 6階 601・602会議室
出席者	委 員：百々尚美会長、寺崎真一郎委員、高嶋弘美委員、高野清志委員 事務局：田中教育長、諏佐部長、福田指導参事、佐藤課長、青木課長補佐、小西主査、大西主事
議 事	1 開 会 進行：佐藤課長 2 教育長挨拶 田中教育長 ・本日はお忙しい中、ご参加いただきありがとうございます。全国的にいじめ防止に取り組んでおりますが、未だに重大な事案を報道等を通じて目にすることが多いです。滝川市は、平成26年に当委員会を設置し、委員の皆様から様々なご意見をいただきながら、いじめ防止に取り組んでおります。いじめの定義が時代とともに変化しており、いじめ認知の判断基準についても変化しています。最近は、いじめの積極的認知がすすめられていることから、認知件数が非常に増加しております。今年度認知した事案の中から抽出いたしまして、委員の皆様からご意見をいただきたいと思います。 3 委員紹介 事務局より委員の紹介 （以後の進行は会長による） 4 議 題 （1）報 告 i 市及び市立学校におけるいじめの防止等に係る取組状況について ii いじめアンケート調査（1回目）の結果概要について i～iiについて、小西主査より報告 質疑応答 委員） ・「今も嫌な思いをしている」と回答した生徒が減少していると考察では書かれておりますが、どここの値を根拠にしているのでしょうか。 事務局） ・「今も嫌な思いをしている」と回答した児童の割合について、令和4年の6月が全体の6.7%、令和5年の6月が全体の6.5%であることから、一部の学年では増加が見ら

れますが、若干減少していると考察いたしました。

委員)

- ・0.2%の差が果たして減少していると捉えられるのか疑問に感じました。どちらかというところ横ばいであると感じました。

事務局)

- ・仰る通り、0.2%の差は、ほとんど誤差であり、減少しているとは言い切れないような差であると捉えられます。

委員)

- ・私もこのデータについて、横ばいに近いと思います。令和3年の値と比べると、令和4年及び令和5年は少し上昇している可能性も考えられます。これは、新型コロナウイルス感染症の影響で減っていた児童生徒同士の接触する時間が元に戻ってきたことが原因の1つであると考えます。逆に言うと、令和3年だけが突出して下がってるわけでもないと思います。

委員)

- ・特に現在の小学校5年正及び小学2年生が、1年ずつ遡っても常に数値が高いです。この集団の特有性があり得ると思います。アンケート調査の結果において、この集団は常に小さなトラブルが起きている印象があります。この件について挙がっている意見や気になること等お聞かせ願います。

事務局)

- ・現在の小学5年生について、令和2年から常に10%以上の児童が嫌な思いをし続けていることが表からわかります。今後は進級及び中学校へ進学後も注視していかなければならない学年だと考えております。

委員)

- ・全体のこの集団は中学校に上がる前の段階で、児童の悩みを常に見てフォローしていくことで、中学生に素早く移行ができると思います。

委員)

- ・「友人が嫌な思いをしているということを見たり、聞いたりしたことがある」と回答した児童生徒数が、小学2年生及び4年生、5年生において増えていますが、「自分が嫌な思いをしている」と回答した児童生徒数は、ほとんど変化がありません。これは、児童生徒がいじめ問題に関心を持った結果なのか、いじめられていることを打ち明けていない児童生徒が増加しているのか、と多様に考えられます。どのように捉えれば良いのでしょうか。

委員)

- ・様々な要因が考えられると思います。他のデータがないと正確な判断は難しいと思います。

委員)

- ・いじめがどのようなものであるかの認識が、児童生徒にかなり備わったと捉えられると思います。教育委員会や学校の先生方も引き続き、いじめ防止の教育について続けていくべきだと思います。

委員)

- ・学年の集団を追って観察することも大事だと思いますが、滝川市の場合はどのようなタイミングでクラス替えなどを行いますでしょうか。

事務局)

- ・滝川市に明確なルールはございません。一般的な傾向として、小学校では2年ごとにクラス替えがあり、担任の先生も変わります。中学校では2年生に進級する際にクラス替えを行い担任が変わり、その後の2年間ではクラス及び担任が同じであることが多い傾向にあります。

委員)

- ・担任や学級のメンバーが変わることで、学級内の雰囲気が大きく変化し、良い方にも悪い方にも嫌な思いをしている人数が変わる傾向があると思っていました。ですが、今年度の小学5年生の集団について、小学2年生の時から常に1割の児童が、嫌な思いをし続けていることが気になります。とても感受性が豊かな状態であるのか、新型コロナウイルス感染症の影響でコミュニケーションツールがうまく身に備わっていない学年集団になってしまったのかなど、原因が考えられます。同様に1割の児童が、嫌な思いをし続けている今年度の小学2年生について、今後同じ状態を継続させないために、観察を継続していく必要があると思いました。

事務局)

- ・新型コロナウイルス感染症の影響で、コミュニケーションがとりにくい環境にあった点は、今後も重視しなければいけないと感じます。小学4年生及び5年生については、去年までの3年間、コミュニケーションを取りにくい生活をずっと送っていました。特に小学4年生については、入学時から一旦休校には入る状況でした。そのため、コロナ禍が空けた現状でコミュニケーションを取ることが難しかったと思います。これまで行っていた小学校の縦割り清掃など、他学年で交流する機会がない状態で高学年を迎えてしまった集団と感じております。

委員)

- ・新型コロナウイルス感染症は、実は大人が思う以上に、児童生徒にかなり影響を与えていると感じます。小学3年生から5年生は学びのチャンスが多くある時期だと思う

のですが、この期間に得られる学びがほとんどない状態ですので、人との付き合い方などを知らないまま成長している可能性があります。今後このことが多くの問題に発展することを危惧しています。学業についてもかなり停滞していると聞いているので、道徳の授業などで、集団内で相手を理解する力や、察する力を育てるような教育を多く取り入れていくべきだと思います。

委員)

- ・人権擁護委員協議会では、人権教室でいじめをテーマに授業をします。いじめアンケートの考察にもあった、加害者を止める勇気や、いじめを見たら保護者や学校の先生などに報告することを教えています。実際、いじめられた子を見た意見があった際に、仲間同士で相談して、いじめを協力して止めるようにしたいと思いました。

委員)

- ・いじめについて、とても敏感になっていることがアンケートからわかると思いますが、それは学校の先生方が、いじめについてみんなが見て見ぬふりをせずに、意識していこうと教育してきた成果だと思います。いじめを止めることだけが周りの子たちにできることとは限りません。いじめを止めることは凄く怖いことでもあります。例えば、いじめのような話題になった際に話題を変えることや、いじめを受けている児童生徒に、話を聞いてあげることなど、様々な役割があることを常に学校の中で伝えていくことが大事なことだと思っています。子供たちがいじめを見つけた際に先生に報告しても、先生が動けないと子供たちはいじめについて鈍感になってしまい、先生に報告しても意味がないと考えてしまうので、先生が適切にフォローしていくことが大事だと思いました。

(2) 協 議

- i 滝川市いじめ防止専門委員会の事業計画について
- ii いじめ認知状況について
- iii 滝川市いじめ防止基本方針の改定について

- i について、小西主査より説明

質疑応答等

特になし

- ii について、小西主査より説明

質疑応答等

委員)

- ・加害児童がすぐに暴言を吐いてしまう件について、担任の先生はこのような場면을指導の機会だと捉えてほしいと思います。この場面をそのままにしまうと、学級の児童生徒は、これぐらいはいいだろうと考えるようになってしまいます。一度暴言や

悪い行動を制止させることで、加害児童生徒や周りの児童生徒がこれは悪いことだと気が付く学びのチャンスになると思います。1件毎に間髪入れず指導することが大事だと思います。

委員)

- ・加害児童を発達障害の視点だけで見てしまわないよう注意するべきだと思います。家庭の状況も児童生徒の状態に関わります。虐待まではいかなくとも、マルトリートメントのような影響もあります。学校の先生が家庭に入るのは難しい場合もあるので、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの活用が必要だと感じます。

事務局)

- ・担任だけで学級の状況を抱えることは難しいと思います。滝川市内でも、各学級に学びサポーターや特別支援学級支援員を活用しています。スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーの方々の力も借りながら、学級を見る必要があると思います。保護者とも常に連携をしながら対応できるよう、学校と相談したいと思います。

委員)

- ・加害児童が被害児童に対し、仕返しとしていたずらをしてしまった件について、今まで嫌な思いをし続け、その思いが突然行動に現れた点が怖いと感じます。一度このようないたずらに味を占めてしまうと、将来的に突然同じような事例を起こしかねません。気が付いた段階でカウンセリングを行い、児童の内面を引き出すべきだと思います。担任の先生一人で、児童を取り巻く環境全体を捉えることは難しいので、スクールカウンセラーを活用して効果的に指導して行く必要があると思います。

委員)

- ・この加害児童はスクールカウンセラーなどの専門家に寄り添っていただく必要があると思います。加害児童にとって苦しいことだったと感じます。しばらく担任以外の先生方でフォローしていただくべきだと思います。加害児童の思いを言葉にできるようにサポートしていただきたいと強く思いました。

委員)

- ・資料を見るだけではわからなかった背景まで知ると、加害児童の心の闇のようなものを感じます。加害児童にも寄り添うことがすごく大事だと思います。ずっと悩んでいた気持ちをもっと早く誰かに相談していればよかったと思うので、相談できる機会を作ってあげられたらよかったと感じています。

委員)

- ・友人グループ内でSNSでのトラブルが起きた件についてですが、このトラブルをSNSの匿名性の問題を考える機会にしていきたいです。SNSの取り扱いについて、とても気を張る家庭や、ある程度児童生徒に任せる家庭もあるので、温度差があると思います。言われたことに対して相手がどう思うのかを想像する力が十分に育つ

ていない可能性があるので、メディアを通して、想像する力や物事の真理を見極める力を育てる教育が今後必要だと思いました。

委員)

- ・相手を思いやる気持ちが出てくれば問題解決につながると思います。難しい問題ではありますが情報化社会において、学校や地域全体が小中学生のSNSでの発信の仕方や、SNSを利用する利点及び問題点を指導する必要があると思います。

委員)

- ・このことはよく指摘される部分だと思いますが、いじめ案件に関してスクールカウンセラーがあまり活用されていないと個人的に思います。

事務局)

- ・スクールカウンセラーの活用について、滝川市においてはいじめの被害相談より、不登校など不安があつて学校に行けない児童生徒に関わっていただいていることが多いと伺っています。これからいじめ対策の校内の委員会などで、スクールカウンセラーの助言も聞いていくことを各校に伝えたいと考えています。校内支援のケース会議に、困り事が多いお子さんについての話し合いや、会議にスクールソーシャルワーカーが参加することも、今年度から始まっています。

委員)

- ・友人グループ内で複数回殴る等の暴力行為が起きた件についてです。ただのじゃれあいだとしても、殴るなどの行為は暴力です。小学校時代に、このグループは中学校に進学した際にどのような変化あったのか、過去に他に事件がないかをしっかり見ていかなければ、再度問題が起きてしまうと思います。今後とも注視するべき事案だと私は思います。

委員)

- ・被害児童がけがをしたことで保護者が心配になり、学校に相談が来たということですが、思春期になると親が思っていることと、本人が思っていることが異なることもあります。保護者だけでなく、生徒本人からも話を聞くことが大事だと思いました。はやしたてた生徒への指導については良い点だと思いました。

委員)

- ・この件は1歩間違えると命の危機にさらされるものだと思います。何かあつてからでは本当に遅いので、暴力は絶対に良くないことをこれからも児童生徒に教えてほしいと思います。

	iiiについて、小西主査より説明 委員) ・ 滝川市では、いじめの被害を受けてることについてよく統計を取られていると思います。状況が良い方向や悪い方向に動いているのか、いじめの加害が続いているのかなど、様々な視点で見ていく必要があると感じました。 委員) ・ これまで教育委員会が率先して行ってきたことは、先駆的な部分があると思います。より話し合いができ、子供たちが訴えられる環境が作られてきていると感じます。私は長く滝川市いじめ防止専門委員会に参加させていただいておりますが、委員会設立当初に比べて、アンケートに児童生徒が自分がされた嫌なことについて細かく語っていると感じます。その都度、学校側が取り上げている環境があることがやはり大事だと思います。いじめがなくなるわけでは決してないと思います。気に入る気に入らない、という人間関係は必ず起こり得ます。その時にされたことに対して嫌と思ったことを訴えられる環境があること。それを聞く人たちがいること。そして、話し合いの場を持てること。この3つが設定されていることが、学校においてとても意味があると思いますので引き続き、滝川市教育委員会が率先していじめ防止の活動を進めていただきたいと強く思います。 委員) ・ 保護者や地域含めて組織的に動いていくことで、いじめが起きたとしても小さいうちに事を収められると思います。「いじめ見逃しゼロ」と記載がありますが、どのように実現を目指すのかが興味深いです。アンケートを取ることで、いじめの気づきが生まれていると思います。子供たちや家庭、学校が気づくことにつながっています。また、アンケートではこれだけの事案が認知されているので、ある程度保護者や学校、児童生徒がいつ何をしたのかが見える形にしていきたいと思います。 委員) ・ 「いじめはどんな理由があっても許されないことだと思いますか」の質問について、「そう思う」の回答がいつか100%になってほしいと常に思っています。児童生徒にいじめは良くないということをこれからも人権教室で私達もアピールしていきたいと思います。 5 次回の会議開催 予定日：令和6年2月下旬（予定） 6 閉会
会議資料	会議次第

